

ニューヨークの大惨事があった日（二〇〇二年九月二日）から間もない頃、アメリカの教育関係者を迎えた。彼等は二学期末を子供と過して日本の教育の状況を視察していった。

六月二十三日沖縄戦の終わった日

この日、横浜国立大学付属鎌倉小学校を視察した後、横浜の「港みらい地区」を案内していた。赤レンガ倉庫付近を散策していた時、『ビートルズの音楽が聞こえる』と、米国人の若い教師が叫んだ。音のする方に向かった。古い貨物停車場近くの公園からだった。近づくにつれて沖縄の三線（さんしん）の音、更に近づくると会場の雰囲気（きづな）が理解できた。『沖縄の基地返還』を求めた集会であった。六月二十二日は、沖縄戦の終わった日（慰霊の日）

平和について語り合った。沖縄の基地問題についても彼女等は関心を示した。その後、帆船（日本丸）から、海上保安庁の巡視艇の停泊している埠頭にさしかかった時、石碑に書かれた香淳皇后（昭和天皇の后）の御歌が目止まった。

ララの品積まれたる見て

とつ国のあつき心に涙こぼしつ

温かきとつ国人のこづつくし

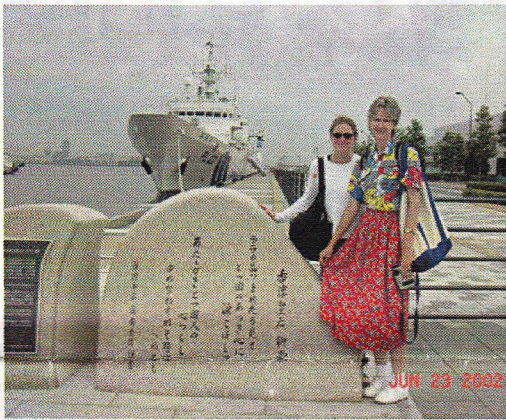
ゆめなわすれそ 時は経ぬとも

香淳皇后御歌

『アメリカは、今も外国で戦いをしてる。このために莫大なお金を遣っている。この戦費の一部でいいから教育に回してくれたら子供達はどんなに幸せだろうか。』と、彼女達が語った言葉が心に重く響いた。

この碑の前で、終戦後の暮らしぶり、脱脂粉乳によるミルク給食などで飢えを凌ぎ救われた子供達のこと、外国貿易で輸出品に Made in Japan（日本製）と付けられず、Made in occupied Japan（占領国日本製）と付けた製品が、連合国の許可のもとに輸出されていたことも戦後の苦しい時代を克服し現在の日本があることを語った。焔毛（えんもう）して話題になった Made in occupied Japan と印された湯呑茶碗を見付けた。女性校長の学生時代の友人もベトナム戦争で死した事実を知らさ

れた。日本軍の特別攻撃隊（特攻隊）のことも話題になった。思えば学徒出陣で多くの若い命が沖縄戦で散華した。『聞け、わたつみの声』の書の中に商大の前身の巣鴨高商の学生の手記がある。この書の中の何篇が英訳して伝えた。彼女たちが目頭を押さえるのを見た。学友がベトナム戦争で逝った辛い思い出が想起されたのか、戦争の非情さが彼女の心を動かしたのか。聞くことを躊躇った。若い教師も『アメリカでは海外の基地に勤務する兵士も多く、教える子の父親もアフガニスタンで死亡した。この子供には特に心をかけ見守っている。』と静かに語った。



香淳皇后の歌碑

2002.6.23

次代を担う若者が、青雲の志を高く『平和と人権を大切に作る社会』を築く旗手として世界に羽ばたいて欲しい。

創刊号の紙面に載せる記事とし、如何と思つたが、今年度の支部総会が六月二十三日、この支部総会に創刊号を出す。この日は、『慰霊の日』でもある、十年前のこの日を想起してこの文章を記した幸いです。 (文責 水越)

編集後記

長年にわたり、今願った支部報の発行ができたことを嬉しく思います。支部報を充実し楽しめる広報紙とするために会員各位のお力添えを、お願いいたします。

今後の紙面構成ですが、千葉商科大学同窓会本部の動静や近隣支部とのかわりなど記事として取り上げると。

- ・ 会員各位の自由投稿（趣味、随筆等）
- ・ ライフワークを語る『人に歴史あり』
- ・ 『この人に聞く』等のコラム・・・等

紙面構成を編集会議で練ってまいります。今後、期待ください。